

3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (北関東)		通信会社（経営者）	・米国の大統領選に伴う混乱により円安、株高が進み企業が活気付いており、家計にも明るさが見られる。
		その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	・1月より、納骨する場所がないお骨を、お寺と組んで新聞広告などで永代供養合葬墓の案内をできるようになった。営業内容が増えるので良くなると考えている。
		商店街（代表者）	・2月に入ると、中学校入学の学校指定販売が始まる。当店は学校販売を主に扱っているため、金回りが良くなる。
		百貨店（店長）	・減収要素が一巡するため、やや良くなる。
		スーパー（総務担当）	・売上、来客数共に前月よりは多少上がってきていることや、今月に入ってテナント売上が戻っているため、これから少し上がってくるのではないかと。
		コンビニ（経営者）	・前年は工事需要から115%で推移していたが、今年は道路開通効果による交通量増で、落ち込みをカバーして、前年比微減にとどまっている。来月は工事需要減がなくなるとみているので、このままいけば、微増に変化するのではないかと。
		乗用車販売店（経営者）	・3月は車検台数が年間で一番多い月のため、代替えも多く、期待できる。
		乗用車販売店（管理担当）	・このところ、ガソリン価格が毎月上がっており、車を購入するうえで、客が燃費の良い車を求める傾向にある。
		自動車備品販売店（経営者）	・販売量が今一つ伸びていないが、とにかく自社努力で伸びるようにして行かなければならないという強い気持ちでいる。3月の年度切替えの時期でもあるので、その辺が鍵となって売上は増えていくと見込んでいる。
		住関連専門店（経営者）	・購入に際し、商品の安さは重要なポイントであると感じているが、便利さ、快適さによって、多少金額が上がってもより良い商品を選択する客が出てきている。
		一般レストラン（経営者）	・フリーの来客数が少しずつ増えている。また、年末年始のため、宴会客等も若干増えており、景気は良くなるのではないかと。
		一般レストラン（経営者）	・あまりにも現状が悪いので、これを底と考えたい。
		都市型ホテル（スタッフ）	・1月、2月共に現時点で前年並みの売上で、前年比101%という目標達成の見込みとなっている。
		旅行代理店（所長）	・3月には大きなイベントが予定されているので、その効果を大いに期待したい。
		通信会社（店長）	・社員の退職が続いていたが、ここ数か月は定着傾向にあり、販売スキルが上がってきている。
		美容室（経営者）	・1月9日の成人の日当日の着付け予約は、前年より早い上に2割ほど多くなっている。予約が早く入る時は、前年より売上が良くなる。
		一般小売店〔精肉〕（経営者）	・年が明けても、気候の変化、変動、寒暖の差といろいろある。また、各地で災害も起こっているため、お金を出すことを控えているようである。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・家電製品に関しては、高額修理代が買換えを促すケースの主流になっており、どこの家庭でも電化製品が行き渡っているため、買い増しは非常に少ない。家電に限らず、必要な出費はするものの、余計な出費はしない消費者が多い。
		百貨店（営業担当）	・景気が上向いてるようには思えず、将来不安から個人消費に回る部分は、変わらないか減るのではないかと感じている。
		百貨店（営業担当）	・食品や化粧品などの消耗品は堅調だが、衣料品は不振のままではないか。来月からクリアランスが始まるが、今月の状況をみると期待できない。今後2～3か月先も今月と変わらない悪さを予測している。
	百貨店（販売促進担当）	・改善する要因が見当たらない。消費者の生活防衛意識は依然高く、消費行動は慎重である。	
	百貨店（店長）	・百貨店では、食品を除いた衣類や宝石などに対する客の購買行動が非常に慎重である。また、主たる購買層である60歳以上の客も、将来への不安からか、あまりお金を使えないという声を聞く。地方では、こうした情勢がすぐに変わると思えない。	
	スーパー（統括）	・少しずつではあるが、消費マインドの改善が感じられるなかで、原油、ガソリン価格の上昇が続き、更に一段と円安が進むことで、小麦や食用油などの原材料が値上げとなり、春物、初夏物の値上げにつながり、消費意欲が低下するのではないかと懸念している。	
	スーパー（副店長）	・今のところ、良くなる、もしくは悪くなる理由は見つからない。	

コンビニ（経営者）	・11～12月は、いろいろなキャンペーンがあり、多少売上が伸びてきているが、来年1～2月も、大体同じだとみている。
コンビニ（店長）	・現在工事関係に助けられ、どうにか前年並みの売上を保っている状況だが、今後も特別大きく変わる理由はないので、前年と変わらないような状況が続く。
衣料品専門店（統括）	・年末、クリスマス、お歳暮の時期であるが、数年前から商店街に足を向ける客は、大分少なくなっている。年始から春にかけても、それほど回復する様子が見えない。
衣料品専門店（販売担当）	・今後、セール、クリアランスを含めて冬物から春物に転換する時期だが、毎年、北関東では春に向かってはかなり悪い。それを加味して今後を考えると、今と変わらないで欲しいというのが実感で、もっと悪くなっていく可能性もある厳しい状況である。
乗用車販売店（経営者）	・米国の次期大統領の発言を聞き、当地の基幹産業の社長が、「我が社の経営方針で行けば米国市場が最も安全、多少の円高でも利益率2けた維持できると思う」と会見を行ったことから、当地は従来程度の推移と考えている。
乗用車販売店（経営者）	・年度末の需要期に期待したい。
乗用車販売店（販売担当）	・当地は観光地を控えているが、ホテル関係の従業員、オーナー、支配人に話を聞くと、12月に入っても、土日など休み前は満館近くなるが、平日は3分の1くらいしか入らないということである。2～3か月先も、思ったより景気は良くなり、このまま低い水準でいくのではないかと。
住関連専門店（仕入担当）	・個人所得の増加と物販面の個人消費は、いまや運動しない。
その他専門店〔燃料〕（従業員）	・受注等が予想より少なく、前年に比べると厳しい状況になっている。
一般レストラン（経営者）	・この先も新年会は期待できないものの、県外客に関しては、悲観するほどではない。
一般レストラン（経営者）	・依然として大都市の極集中が続いている。地方創生改革が、地方になかなか及ばない。
一般レストラン（経営者）	・米国の次期大統領就任が心理的にどう影響するのか不透明である。株価や為替の動き次第で、景気が左右される。需要があっても人手不足でこたえられない状況のため、景気改善には限界があるように思う。
スナック（経営者）	・忘年会が非常に悪かったものの、原因が分からないためしばらく様子を見たい。
スナック（経営者）	・変わらないと回答したが、変わらないというより良くなる状況に至らない。アベノミクスが、どこまでかと本当に心配している。
観光型旅館（経営者）	・インバウンドが伸びてきているが、今年は前年あった冬のふるさと旅行券がないので、プラスマイナスの要素が重なり、横ばいを予想している。
都市型ホテル（スタッフ）	・当ホテルは駅前に近いということもあるが、例年と変わらない。これから歓送迎会シーズンに入るが、例年とはほとんど変わらない状況である。
都市型ホテル（営業担当）	・年間を通して下期の10～12月は、稼働が安定してそれなりに良くなったりすることもあるが、年明けから3月までというのは、ある程度落ち着いてくる。さらに稼働を上げるような決定的な要素はそれほどないため、変わらない。
旅行代理店（従業員）	・世界情勢が良くなっていない。
タクシー（経営者）	・全体的に動きが悪いので、この先も変わらない。
タクシー（役員）	・駅の乗降客の推移から判断している。
通信会社（経営者）	・節約志向がこのまま続けば、ますます厳しくなっていく。
テーマパーク（職員）	・円安によるインバウンドの増加は期待できるが、年末年始の日並みの悪さや国内景気動向をみると、期待出来ない。
観光名所（職員）	・積雪の状態にもよるが、年々、降雪時期が遅くなり、積雪量も減少しているため、今後の気象状況にも左右される。
ゴルフ場（総務部長）	・1月上旬～3月上旬まで例年同様冬期クローズとなるため、変わらない。
競輪場（職員）	・全国発売の記念競輪レースの売上が、ほぼ同額で推移している。
その他サービス〔貸切バス〕（経営者）	・地元神社の式年行事が終わり、旅行が増加すると予想していたが、思ったほど増えていない。
その他サービス〔立体駐車場〕（従業員）	・予約数等をもて、各テナントは横ばいの状況である。客の買回り品もすべて身の回り品に限定されているので、変わらない。
その他サービス〔イベント企画〕（職員）	・景気回復に向けた動きも見られるが、いまだ不安定である。

	設計事務所（経営者）	・現状、計画が少なく、まだ景気の良くなる兆しはない。
	設計事務所（所長）	・安定しているので、新春イベントで取りこぼしのないよう、変化や意味のあるキャンペーンとなるよう努力したい。
	商店街（代表者）	・消耗品以外、多くの方は物を持っている。若者は新しい物を買うが、中高年はより一層、お金を使わなくなり、駅前であっても、物を買わない人が多くなってきている。
	商店街（代表者）	・正月にはホテルで集合写真の出張撮影があるが、前年より受注が少ない、新年会や同窓会等の数が減っているようである。
	一般小売店〔衣料〕（経営者）	・客は来ているものの、誰からも、「客が来て売上が伸びた」という声が聞こえてこない。そうしたこともあり、この先もあまり良くはならないのではないかと。
	一般小売店〔乳業〕（経営者）	・需要は縮小傾向にあり、需要喚起の要因がない。
	一般小売店〔家電〕（経営者）	・新聞等では、景気は上向きとの報道だが、地方では消費の上向きは特に感じられない。
	スーパー（経営者）	・客の節約志向が、買物に影響し始めている。
	スーパー（商品部担当）	・競合店の出店計画があり、苦戦する場面が多々ありそうである。クリスマスの動きをみると、年末も今一つ盛り上がりには欠けそうである。
	コンビニ（経営者）	・12月の年末商戦に比べて1～2月は売上を伸ばす商材が少なく、例年あまり期待できない。2月のバレンタインは難しいし、恵方巻きのイベントくらいにしか期待できないなかで、ある程度苦戦を強いられると予想している。
	コンビニ（経営者）	・今月はボーナス等の収入があるため、客の買上点数も多いが、2～3か月先は臨時収入も見込めず、客の買い控えが発生すると思われる。
	コンビニ（店長）	・年末に力を入れた予約販売が予想以上の成果を上げ、来客数の増加につながったが、近くにある食事処が大みそかをもって廃業したことなどがマイナス要因となり、悪い方向に行くのではないかと。
	家電量販店（店長）	・年々春の移動マーケットは縮小しており、期待出来ず、季節商材の動きが鍵を握るとみている。省エネ商品の買換え推奨政策などがないと、今後は厳しい。
	都市型ホテル（副支配人）	・1～2月は毎年落ち込む時期である。特に、1月前半の予約状況は芳しくない。
	旅行代理店（副支店長）	・天候不順による農産物の不作が要因となり、農家等の客足が鈍くなるとみている。また、海外旅行では企業の出張や研修旅行等の受注が減少し、国内旅行では個人の受注が減少、冬期受注は前年の7割程度となっている。
	タクシー運転手	・新年会もあると思うが、それほど期待できない。
	通信会社（経営者）	・地方では相変わらず物が売れない状況が続いている。発表された消費者物価指数もそうだが、家計支出も前年度比マイナス1.5%という結果である。一時的に所得が上がっても、消費が増えるのではなく貯蓄に回っているだけであり、物が売れず価格が下がる。貯蓄に走るのは年金問題等も含めた将来不安が原因である。これを払拭しない限りデフレ脱却はできないのではないだろうか。その根本は人口減であり、地方の過疎化である。我が子に「年金は積んだ方がいいのか」と聞かれても返事に困るという現象が既に起きている。
	ゴルフ場（経営者）	・降雪地域のため雪不足を背景に、スキー場や除雪業などの雪関連事業が不振に陥る可能性が大きい。
	ゴルフ場（支配人）	・正月から1月中旬までは帰省などによる若者の来場者が多くなり、毎年予約は好調なものの、それ以降は非常に厳しい。隣県のゴルフ場の雪によるクローズにより、予約が増えると期待している。
	その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・シャッター通りは増加傾向で、経営における人件費比率は上昇しているが、その要因は賃上げではなく、粗利率の減少にある。この傾向は続く。
	設計事務所（所長）	・現在も東京では忙しいのかもしれないが、当地では年が明け、先が見えてきた時に、次の仕事がないという状況が予想される。
	住宅販売会社（従業員）	・年末年始の来場者数は前年比2～3割減少の見込みである。
	住宅販売会社（経営者）	・米国の次期大統領就任によって、円高に変化することが要因となり全体的に悪化傾向が予想されている。不動産の動きも鈍くなる。
x	商店街（代表者）	・地元では大河ドラマロスが叫ばれ、反動があることは必然である。余韻に期待しつつ、地に足のついた営業を続けたい。
x	コンビニ（経営者）	・寒くなってきているので、あまり来客数が見込めない。

	x	一般レストラン（経営者）	・来客数や同業者の話聞いても、良い材料は一つも見当たらない。
	x	観光型ホテル（経営者）	・1～3月は閑散期で、例年並みの厳しい数字が予想される。都内から2時間程度しか離れていない当地でも、景気回復の実感は無である。
	x	タクシー運転手	・例年12月の売上が一番良いので、今後は落ちる。
	x	通信会社（経営者）	・この低迷からの脱却のためにも、1月から企画広報とは別の新たな業務を開始するが、すんなり受け入れられるほど地方は元気ではない。
企業 動向 関連 (北関東)		輸送用機械器具製造業（経営者）	・地元の自動車メーカーの米国への輸出が増加している。
		その他製造業 [環境機器]（経営者）	・太陽光発電が1月に525K新設し連携、3月に385K増設連携予定で、約1メガで売電価格40円の案件がある。
		一般機械器具製造業（経営者）	・従来の取引先からの受注減少傾向が止まり、新規取引先からの受注額も順次増加する見込みである。
		一般機械器具製造業（経営者）	・数件の新規案件立ち上げの予定があり、既存の取引先からの仕事が減少するとの情報も皆無である。
		通信業（経営者）	・期待を込めて、やや良くなる。
		経営コンサルタント	・雇用面がややひっ迫し、そうしたなかで所得はやや増加している。年末という季節的要因があるにしても、この流れで今よりはやや消費支出が増え、若干の設備投資もあるとみている。
		食料品製造業（営業統括）	・今のところ順調に推移しているが、来年以降、米国の次期大統領の発言次第で、景気も左右されると考えられ、輸入ワインの動きやワインの酒税増税が消費者に与える影響も大きく、今後が読み切れない状況にある。
		窯業・土石製品製造業（総務担当）	・前年同期と比べて、売上がやや増加する。
		電気機械器具製造業（経営者）	・以前に比べて、仕事の確保や、回転が良くなっていると思うが、先についてはまだよく分からない。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・12月より生産量は多少増加傾向になるものの、今までの落ち込み分を解消するには至らない。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・取引先が十数社あるので、受注量、販売量、取引先の様子も、繁閑が各社まちまちあるので、ほとんど変わらない状況を維持している。今後2～3か月先も、半分の会社が暇でも、残りの会社は忙しいという感じでいくと思うが、正直分からない。
		その他製造業 [宝石・貴金属]（経営者）	・業況の厳しさから在庫調整してきたため、客に目新しさでアピールする物が無いと言われていた。来年は年明けにジュエリーフェアがあり、フェア用に新作を作成しているため、アピールして弾みをつけたい。
		その他製造業 [消防用品]（営業担当）	・しばらくはこのまま推移する。
		建設業（開発担当）	・公共工事主体の建設業だが、今期は公共工事発注が前年の89%と大幅に減少している。建設業は10年以上続いた不況で、若者が就職しない業種になっているため、就業者が高齢化している。当社も10年経過して単純に平均年齢が10年分上がっているに等しい状況である。今後、魅力ある企業運営がますます遠くなるような気がして不安である。
		輸送業（営業担当）	・米国大統領の交代もあるものの、年明けの新生活用品、白物家電や雑貨等の物量は前年並みの予測である。
		金融業（調査担当）	・製造業では円安効果への期待がある一方で、原材料価格上昇への懸念や、観光関連産業への影響を注視する必要がある。
		金融業（経営企画担当）	・製造業の受注は今後も順調に推移していくとみるが、飲食、小売、ホテル、旅館業では、先行きの不透明感から個人の消費動向を厳し目にみているため、これらを相対的にみて、変わらないと判断している。
		不動産業（管理担当）	・受託業務量の増減は今のところ予想されていないので、横ばいである。ただし、来年度の契約交渉が始まる前に、人員配置を中心とした経費見直しをして、利益確保のできる態勢を準備する予定である。
		新聞販売店 [広告]（総務担当）	・元旦、3日のチラシ出稿量はほぼ前年並みで、それぞれ98.4%、99.3%となっている。
		社会保険労務士	・ガソリン価格は少しずつ上昇している。輸出産業の派遣社員の採用等はまだ出ていない。先行きは今と大きく変わらないとみている。
	その他サービス業 [情報サービス]（経営者）	・IT関連への投資意欲は旺盛であり、今後も引き合い、受注量は増加するとみている。	

	化学工業（経営者）	・単発の受注が、継続的な受注増につながる可能性は現時点で確認できないため、やや悪くなると考えている。
	電気機械器具製造業（経営者）	・2～3月は年度末の在庫調整で、かなり生産量を絞る可能性がある。そのため落ち込むだろうと考えている。
	電気機械器具製造業（経営者）	・取引先の主要機種モデルチェンジが遅れており、来春までその日程を決めかねている状況である。
	不動産業（経営者）	・人件費が削られている。
	広告代理店（営業担当）	・ここ3年ほど、年度末に向かって広告予算が削られる傾向にある。
×	食料品製造業（製造担当）	・米国の次期大統領就任によるご祝儀相場がとても気になる。その影響で円安が加速しないかととても不安である。
×	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・毎月利益が上がらず、資金繰りは大変である。
×	窯業・土石製品製造業（経営者）	・全く予想の付かない情勢である。
雇用 関連	-	-
(北関東)	人材派遣会社（経営者）	・1月から忙しくなる予定なので、来年を楽しみにしている。
	職業安定所（職員）	・受注増の話を、製造業から複数聞いている。
	人材派遣会社（経営者）	・電機や電子、機械といった製造業等は、人員確保もみられるようで、横ばい状態で推移する。ただし、ガソリン価格等が若干上昇してきているので、輸送部門の今後がどうなるか、厳しいのではないかと。また、依然として介護、サービス等は、人材不足が続くとみている。
	人材派遣会社（管理担当）	・年度末の製造派遣等、特需の話がない。
	人材派遣会社（営業担当）	・新卒や中途採用がうまくいかず、企業からの相談はあるものの、採用基準が明確でないような気がする。
	人材派遣会社（支社長）	・引き合いは依然として強く、派遣スタッフに対して正社員雇用前提の案件が目立つようになってきている。雇用契約法の満期を迎える2018年を見据えて、早めに直接雇用へと切り替える企業が増えそうな気配がある。
	求人情報誌製作会社（経営者）	・製造業の募集は多少続くものの、年末期間限定のパート、アルバイトの募集はなくなるため、例年並みに落ち着く。
	職業安定所（職員）	・当職業安定所の求人倍率は1.81倍まで伸び、平成4年8月の1.87倍以来、24年3か月ぶりの水準となり、前月同様、高水準を保っている。慢性的な人手不足産業に加え、当地域の主力産業である卸、小売、サービスは依然として人手不足で、大口求人が更新されている。このような状況が当面続くなかで、月間有効求職者数が9か月連続で前年を下回っている。人手不足のために、大口求人が当面続くと見込まれる。
	職業安定所（職員）	・求人数は増加傾向を示しているが、派遣や臨時など短期的な求人増によるものであり、景気が良くなると感じられない。
	民間職業紹介機関（経営者）	・求人をけん引する製造業において、正社員求人が増えそうな気配はあるものの、年齢、経験、人柄等の採用基準が厳しく、結果として採用が充足されずに残り続けることが多い。
	学校〔専門学校〕（副校長）	・県内求人の地域格差が出てきている。新卒採用が一段落したこの時期に地域格差が出るのは仕方ないが、その差が激しいように感じる。地方に行けば行くほど、景気の改善は小さいと感じる。
	*	*
×	-	-